



# 学校だより

1月号 第422号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

## 明けまして おめでとうございます

～コロナ禍の今、多様性について考える～

校長 金森 孝子

令和4年が明けました。今年の干支は、「壬寅（みずのえとら）」。壬寅は、乳虎、母虎のように優しい虎と言われています。新たなオミクロン株の感染拡大で、閉塞感や不安定さを払拭することは難しいと思いますが、壬寅のように、家族をはじめ、周囲の人にも、そしてまだ会ったことのない人に対しても、優しい気持ちをもって過ごす年にしたいものです。実は、壬寅は私の干支。今年の抱負は、「壬寅のイメージを膨らませながら、誰にでも柔らかな笑顔、心で接する」と決めました。



昨年12月、「人権週間」（12月4日～10日）に合わせ、すべてのクラスで人権について考える学習をしました。はじめに、12月7日（火）人権朝会で、私から人権週間についての話をしました。日本全体で取り組んでいる人権啓発活動であること、今回で73回目を迎えること、第二次世界大戦の反省から1948年に「世界人権宣言」が採択されたことがこの週間の基になっていることなどについて説明しました。次に、人権推進の担当教員から、「みえるとか みえないとか」（ヨシタケシンスケ：作 伊藤亜紗：相談 アリス館）の本の紹介と、クラスの取組についての話がありました。この本は、主人公が様々な登場人物との出会いを通して「自分との違い」「相手の視点」に気付いていく内容で、学校生活や自分や友達に当てはめ、具体的に考えることのできるストーリーが詰まっています。「宇宙飛行士のぼくが降り立ったのは、なんと目が3つあるひとの星。普通にしているだけなのに、『後ろが見えないなんてかわいそう』とか『後ろが見えないのに歩けるなんてすごい』とか言われて変な感じ。ぼくはそこで、目の見えないひとに話しかけてみる。目の見えないひとが「見る」世界は、ぼくとは大きくちがっていた」（本のレビューより引用）また、この本は、多様性「ダイバーシティ」について理解を深めることができる本として出版社のサイトでも挙げられています。コロナ禍では、様々な人権課題が噴出しています。感染者、医療関係者、ワクチン未接種者、感染者の多い都道府県、帰国者への差別なども、相手の視点、多様性への理解が進めば解決していくことのできる問題だと思います。今、学年に応じた課題をもって多様性について話し合うことは、とても重要と考えました。各クラスの取組は、学校として1枚のポスターとしてまとめ、12月の授業参観の日に掲示しました。1月からは、東山田中ブロックの4校の人権の取組ポスターが巡回して掲示されます。子どもたちには、他の学校の取組にも触れ、人権についての意識を高めていけるよう働きかけていきます。

ウィズコロナ、アフターコロナ、ポストコロナという言葉と共に、第6波が訪れようとしている中でも、子どもたちには明るく希望をもって学校生活を送ってほしいと願っています。

1月27日（木）の創立50周年記念式典に向けての取組は、子どもたちの経験をより豊かにし、子どもたちにとっての大きな楽しみとなっています。「だれもが」「安心して」「豊かに」生活することのできる人権を基盤とした学校づくり、学校の取組に、本年も応援をよろしく願いいたします。

創立50周年記念事業については、改めて整理し、保護者の皆様に学校だより臨時号として1月中旬にお知らせする予定です。

